



NPO自治体協働事業

レポート

このコーナーではNPOと地方自治体による協働事業を紹介します。ノウハウはあるが活動資金に乏しいNPOと、効率的な事業活動を目指す自治体との連携による事業の成果について考えます。

乾電池リユース事業

特定非営利活動法人RE機構 (東京都調布市)

障害児たちが養護施設などを卒業した後の落ち着き先の一つとして福祉作業所や授産施設などがあります。

特定非営利活動法人RE機構では、横浜市と日本で初めての協働事業として、これら福祉施設と連携して乾電池のリユース事業で成果を上げ、障害者の社会参加のひとつの可能性を示しています。

乾電池はまだ使える

家庭によくある電化製品やおもちゃなどによく利用される乾電池。しかし、使い切るといっ

なかなか難しいようです。特定非営利活動法人RE機構代表の清野眞里恵さんは広告業を営んでいましたが、あるフィルムメーカーの「使いきりカメラ」に使用されている単三乾電池の残量がほとんどなくなっていないことに気がつきました。そこで清野さんは、DPEの担当者に「どうせ捨てるのならください」と交渉したところ、電池の処理に困っていたこともあり、こころよく応じてくれることになり事業はスタートしました。現在は事業も順調で電池は有償で仕入れています。「これらがこぎつかけで、リサイクルのNPOを立ち上げたわけです。資源循環社会に向けて経済産業省では3R（①リデュース②リユース③リサイクル）運動を展開しています。私たちは10年も前からリユース事業を行っているわけで、いわば環境時代の先取りをしていたというこ



まどか工場の1階が乾電池の作業所で2階ではクッキーを作っています。

とです」と清野さんは話します。

小規模作業所との コラボレーション

リデュースはごみの発生抑制、リサイクルは再利用のことですが、リユースとは再利用を意味します。一見リサイクルとリユースは同じに思えますが、リユースは一切手を加えず、そのまま利



飯塚指導員が熱心に作業員の質問にこたえます。

用することをいいます。一度使った電池がそのまま使えるとは少し信じられませんが、実は「使いきりカメラ」で使われる電気量は、容量の数パーセントにすぎず、残量はかなり残っているのが普通なのだそうです。これを捨てるのはいかにも資源の無駄、これを再利用したいという素朴な清野さんの発想が事業に結びついたのです。

しかし、作業所とリサイクル事業との結びつきは意外なものでした。

「事業を展開している最中、私のリサイクルに関する講演に常に現れる不思議な人がいました



電池が錆びないように、作業は手袋をして行います。

(笑)。横浜市の福祉局の方で、お話しすると授産施設などの事業として乾電池のリサイクル事業を取り入れたいということだったので、喜んでお引き受けすることにしたわけです」

リユース事業で収益向上

社会福祉法人「夢21福祉会」は、横浜市保土ヶ谷区で7か所、旭区で2か所の授産施設を運営し

ています。そのうち、旭区で運営する「まどか工房」では乾電池のリユース事業のひとつを行っています。RE機構から格安で仕入れた乾電池を工房で仕分けを行い提携している横浜市内のふれあいショップに卸すというのが一連の流れです。また、横浜市との協働事業ということで横浜市役所で使用される乾電池は、まどか工房などから購入することになっており（その他13か所の施設で作り、20か所のふれあいショップから購入）、まどか工房の重要な収入源となっています。

指導員の飯塚豊江さんは「作業所の事業はいずれも単価が安く収入は低かったのですが、清野さんから乾電池の事業を紹介してもらい収益が上がりました。作業所にくる方にも、それなりの給料を出せるようになり、非常にありがたいですね」と乾電池リユース事業の素晴らしさを教えてくれます。

取材に訪問した日も、8人ほどが熱心に作業に取り組んでいる姿が印象に残りました。

環境社会への対応と福祉作業所の収入アップという、一石二鳥を実現したRE機構の乾電池リユース事業は、これからの日本社会のあるべき姿のひとつを見事に提示しています。

DATA

特定非営利活動法人RE機構

代表 清野眞里恵

〒182-0001

東京都調布市緑ヶ丘2-44-5-308

TEL. 03-5314-2142

FAX. 03-5314-2143

<http://www.re-kikou.org/RE-recycle/RE-denchi.html>